隱岐島後東北海岸火山岩の風景

（圖版第一版付）

春本篤夫

東海道や山陽の旅に馴れて、汽車の窓から青松白砂の柔かい風景に親んだものが一たび裏日本の海岸に出て、砂丘があつたり懸崖が續いたりする荒削りな、何處となく寂びのある風景に接する時は多少陰鬱な氣分はあるが一種豪壯の感に打たれるのが常である。

出雲の海岸を十二三里距てゝ日本海中に浮ぶ隱岐の島に渡つて見る時は、更に造化の振つた巨斧の痕が如何に放膽で男性的であるかに驚く。島前と言はず島後といはず直接外洋の波濤に洗はれたところは到る處殆ど懸崖を以て圍まれてゐる觀がある。島前は三つの島が鼎立してゐて、これ等によつて包まれた內海は波浪がその勢力を殺がれるために海岸の風物に餘程柔かな感じを與へる。

島取縣の境と隱岐の西郷との間には四百噸許りの汽船が毎日定刻に一往復し、朝境を出發して島前の諸島を縫つて島後の西郷に達し、更に夜間西郷を發して早朝境に歸る。

境港を解纜した船が最初に入港するのは島前の南端、知夫里島の知々井港である。甲板に立つて港口に展開されてゆく風景を眺めるならばそこに驚嘆に値する眞黑な玄武岩の熔岩流の斷面があり、これを貫く幾枚かの白い粗面岩の岩脈がある。若しそれが春から夏にかけてゞあるならば絕壁の後ろは青い草で被はれた緩かな波狀の丘をなして、その上に放牧の牛が悠歩してゐる情景は捨て難いものがある。山骨露はな豪放な海岸と青草を敷き詰めた纖細な丘陵の景色とは面白い直線と曲線との組み合せである。

西へ廻つて赤灘瀬戸を入れば此處は島前の内海である。船は半圓形に巡つて燒火山を北東に眺め北に眺め更に西に眺める。海岸には大きな絶壁もないが山脚は直ちに海に入つて平野を留めない部分が多い。黒木の御所を拜して中井口を通過すれば船は再び外洋に出でゝ島後に向ふ。

島後は南北五里、東西四里の殆ど圓形の島である。主都西郷を基點として東に廻れば略海岸線に沿ふて屈曲の多い道路が開けてゐる。濱邊を傳ひ絶壁の上を通り幾多のトンネルを潜つて、素通りにすれば三四日にして再び西郷に歸る事が出來る。この間大凡二十四五里。東南に西郷灣、西北に重栖灣のある他は多少の小屈曲を除いては總べて直接縹渺たる外洋の波に洗はれ巨巖磊々、或は奇形の島を形づくり、顯礁をなし或は數基米に連る直下百米に及ぶ斷崖を現はす。海岸の風致奔放にして男性的なる事は言ふまでもない。

特に水平的の小肢節に富み風景最も勝れ地質學的にも興味の多いのは東北部の海岸である。北端に近い中村から東側の大久に到る間は、或は海水に浸蝕された粗面岩が奇形の巖頭に危く玄武岩を頂き或は安山岩の島の下底に美しい凝灰岩の層理が露はれ或は粗面岩の岩脈によつて見事に裂裂がけに切られた安山岩の小島があり、これ等が奇怪な容姿をなせる磯馴松によつて點綴されてゐる有樣は正に天下の奇勝である。これ等が特異の好露出によつて一々學術的に種々の水成岩や火成岩の累疊の關係を如實に物語つてゐる點に至つては確かに日本地質名勝の雄なるものと言つて憚らない。

中村の東北に、一、五基米許り海中に突出した海苔田鼻といふ半島がある。不斷に働く巨濤のために下底を浸蝕されて兩岸は直下七八十米に近い絶壁である。半島の基部に元屋（グワヤ）といふ村落がある、その北側の海に面した所に「さめずの瀧」といふ見事な柱狀節理の發達した玄武岩の崖がある、高さ三十米、幅二百米に餘る大きな絶壁である。

半島の先端に近い所に鎧島といふのがある（圖版第一版、第一圖）實は島ではなく半島の鼻に近い北側の一部が縊れて僅かに陸續きとなつたものである。直立五六十米に達する巨巖で下部は紺碧の深淵に臨み巖脚に碎ける波浪は二六時中純白の飛沫を奔騰せしめてゐる。下部は徑一二呎の美事な柱狀に節理した粗面岩からなり、上部三分の一許りは黑い玄武岩からなる。兩者の境は粗面岩の方へ向つてコンベックスの半圓形をなし、玄武岩はその中心より美しい放射狀の節理を現はしてゐる。正面から見るとその狀恰かも身の丈二十米に餘る巨人が鎧を着て巖頭に坐せるが如き觀があり俚俗鎧島の名稱のある所以がうなづかれる。玄武岩は前後に連絡のない小パッチとして粗面岩の上に乘つてゐるが之は西方「さめずの瀧」のそれと一續きであつたものが浸蝕のために途中が削剝し去られたものである。この玄武岩は多量の橄欖石の斑晶を有する種類で粗面岩の流出後相當の時期を距てゝその浸蝕面の上に流れたものである。鎧島の部分に於ては半圓形の斷面を有する河底樣の凹所に流れ込んだもので冷却面に直角な方向に節理の生ずる標式的の例である。

下部の粗面岩はアノルソクレースを有する曹達に富んだアルカリ岩で島後の各地に熔岩流として又岩脈となつて存する種類である。海苔田鼻の半島に於ては粗面岩は黑色の頁岩の上に乘つてゐる。頁岩の露出は半島部に於ては多くないが一ヶ所半島の先端より五六百米西南方で北岸に立派な露出があつて、此處では頁岩の上に粗面岩が乘り更にこの上に柱狀節理の發達した玄武岩が乘つてゐる狀を明瞭に見られる。（圖版第一版第二圖）

半島の鼻に垂直に粗面岩を横ぎつてチタン輝石を多量に含む玄武岩の岩脈がある、厚さ三呎ばかり。昔時戰に敗れた武者一騎この海邊に逃れ來つて騎馬にてこの所を乘り越えたゝめに岩の上に立派な階段を生じたのだといふ傳說がある。前記の鎧武者と聯想して作り出された傳說であらうが、岩脈の露出面は半島の兩岸に美事

な階段を作り、トラップ Trap といふ語のかゝる岩石に付せられた意味が如何にも面白く窺はれる。

頁岩砂岩及び凝灰岩等からなる三紀層は本島の基盤をなすもので島を一周すれば海岸の斷崖の下底部に於て到る處に之を見る事が出來る。走向は非常に複雜で各所一定の傾向を表はさないが、東部から南西部に發達するものは凝灰岩、凝灰質砂岩が多く殊に南西部に於ては介化石を多く含む。北部に於ては黑灰色の頁岩が多く非凝灰質で植物化石を含み之は前者の下部に位するものと思はれる節がある。

島後東北海岸に於ては一般に三紀層の上に輝石安山岩、粗面岩、玄武岩の順序に乘つてゐるが所によつては安山岩を欠き頁岩の上に粗面岩が乘り安山岩の上に玄武岩が乘つてゐる。中村の西南に大峯山といふ玄武岩の美しい火山があるが之を登つて行く時は下部から順次これ等の岩石の重り工合が面白く見られる。

東北岸に布施といふ港がある。港の北背をなす小半島の北岸に於て、戸の浦、淨土浦、小浦などといふ小さな入江があり、附近には斷崖あり小島ありこの附近もまた島中の絶景の地である。此處では凝灰質砂岩、角礫凝灰岩の層の上に輝石安山岩が乘つて、この上に粗面岩が乘り

布施大久間の砂岩中の安山岩脈

或は安山岩の上に直接玄武岩が乘つてゐる。玄武岩は此處でも柱狀節理が發達して山頂に粗朶狀に削立してゐる部分がある。或は海岸に黑い幔幕を張つた樣に安山岩の上に殆ど水平に流れた垂直斷面を現はした部分もある。玄武岩と安山岩との接する面に沿ふて玄武岩及び粗面岩の

圓礫を薄く挾んだ部分もある。

布施より南方卯敷に到る間は海岸に安山岩が露出し、無數の粗面岩の岩脈にて貫かれ僅か二基米位の間に少くも十幾枚かの岩脈を數へる事が出來る。粗面岩の岩脈を以て斜に切られた安山岩の小島もこの附近で見られる。

この他卯敷東方の倉ヶ谷のトンネル附近の百米に餘る白い凝灰質砂岩の斷崖を眞黑な安山岩の岩脈が見事に垂直に走つて一ヶ所斜に支脈を出したもの、或は遠く西南海岸藏田附近に於て白い砂岩中に幾枚もの黑い安山岩の岩床が迸入し、之が段階狀の斷層によつて數多に切斷された有樣など地質學的に面白い風景が少くない。

以上は單に種々の岩石が露出の工合の面白いことと殊に玄武岩、粗面岩の構造 Structure caused by cracking and fracturing のために特異の風景を現はしてゐることを述べたに過ぎない。島後には以上の岩石の他にアルカリ流紋岩や花崗岩質片麻岩などの種々の岩石がある、これ等の岩石學的性質や地質學的關係についてはもう研究中である。

○編輯便り

□地球も追々發育して來まして最早や獨りで歩けだしたと安心して居ましたが、まだまだつまづいて轉んだりします。發行所が大阪に變つたことは編輯同人に取りましては印刷所が馴れて居ない點で當分は骨が折れやうと云ふものです。投稿される者の協力で「地球」をして世の中に濶歩出來るものとして下さい。

□卷頭の辭にもある樣に四月には聚落研究特別號を出す計畫であります。地方からの御投稿を歡迎します。さゝやかなる山懷ろの村などの觀察や、冬の頃は浪の高い荒海を前にした漁村などの人文研究は殊に望ましい題目の一つです。原稿締切は二月一杯でよろしいのですが題目と頁數とは豫め御通知を願ひます。

□第五卷はなるべく人文地理攻究に捧げたいと思ひます。同人の幾人かは其の蘊蓄を傾けやうとして居ります。之と同時に地質學的の研鑽をも怱にしない豫定で三月からは講話欄に東京帝國大學教授理學博士加藤武夫先生の「本邦に於ける造山作用、火山作用及び鑛床成生の關係附本邦鑛床の標式に就て」と題する明確な論議を引續いて掲載します。